

尾崎今男氏 タオル製織技術者・(株)三光産業創設者

タオル製織一筋に、60年間技術開発・改良にまい進。1971年タオル織機調整技能検定試験1級取得。シャーリングなど数多くの技術で特許を取得し、1977年科学技術庁長官賞、1997年愛媛県知事賞、1999年労働大臣賞(現代の名工)、2003年黄綬褒章を受章。今治のタオルづくりには欠かせない技術者のひとり。

おざき・いまお 1931年、今治市波方町生まれ。1950年4月、繊維工業公共職業補導所織機科に入所しタオル製織の基本を学ぶ。1951年3月に同科修了後、同年4月に新興織物(株)に入社。1955年1月、(株)越智頼商会に移り技術者としてさらなる研鑽^{けんさん}をつむ。1973年3月、四国タオル技能士研究会発足で初代会長に就任。1984年、(株)三光産業を創設し現在は同社会長。



(写真：尾崎今男氏提供)

一筋の糸に託した わが人生 重ねし苦勞の花は開いて

この詩は、(株)三光産業のタオル工場の事務所に飾られており、遍路途中のあるお坊さんが詠ったものである。尾崎氏の人生そのものをあらわした詩である。タオル工場の近くには、四国八十八ヶ所58番札所の仙遊寺がひっそりと佇む。



仙遊寺

1. 幼・少年時代

1931年10月、尾崎氏は3女1男の末っ子として生まれた。その1ヶ月前の9月、船乗りだった父親が水難事故で亡くなった。父親の顔を知らずに母子家庭で育った尾崎氏は、母親の苦勞を身近でみてきたと同時に、みずからの人間形成において母親の影響をうけておおきくなった。母親を助けるために、姉たちも母親の手伝いをよくした。尾崎氏の面倒は姉たちの役回りであり、赤ん坊だった尾崎氏を背負って山を越え小学校に通った。教室に入ると赤ん坊がギャーギャー泣くので、廊下で毎日勉強していたそうである。

母親は、子供たちを育てるために必死で働いた。無学であったが心のきれいな誠心誠意生きた女性であった。尾崎氏は、毎朝、6畳一間の借家で「我も良かれ人も良かれ、どうぞ一日元気で働かしてください」という母親の手を合わしながら祈る声で目を覚ました。




左から三女セツ子、母キサヨ、二女チズエ
(写真：尾崎今男氏提供)

子供に対しては凜として接し、「嘘は泥棒のはじまり」、「天知る、地知る、人ぞ知る」、「すべてのお天道さんがお見通しじゃ、それに自分が一番よう知っとろうが」、「生活は貧乏でも心は貧乏になるな、心は錦よ」など、なんども繰り返し子供に言って聞かせた。

尾崎氏は、幼少のころ父親に会いたい、父親の力を借りたいとおもったときもあったが、このような母親のもとで、あるがまま、なるがまま、自然のままに、心の素直な人間に成長していった。いまでも「自分は人に生かされている」とつよく感じるのも、母親から教わった数々の「生きる糧」によるものだ。観音さまのような慈悲の心、代償を求めない愛情、偉大な人、尊敬する人、甘えたい人、怖い人、心の郷愁がいつもどこかにあるようでいつもそばにいるような、そんな母親であった。女性の新しい生命をつくりだす肉体力、そしてねばり強さをもった精神力には男性がどうあがいてもかなわない、という(自称)女性崇拝者の尾崎氏の原点は、幼いころの母親の教えにあるといっても過言ではない。

日本が太平洋戦争に突入した1941年、尾崎氏は尋常小学校の学生であった。気が弱くて泣き虫で、でも素直でがんばりやの少年だった。授業時間にいちどプールで溺れかけたことがある。あまりの恐ろしさに水が大嫌いになった。そのとき担任の先生が「水は変わりゃせん。水はいつも同じや。お前が変わらんとなにも変らんぞ。」と言った。その言葉に「自分を変えてみよう」と考え、ふたたびプールに入った。そうすると、それまで水が恐ろしかったのがウソのように、プールで泳ぐことが大好きになった。のちに自由形で水泳の選手になったほどだ。こんな素直な尾崎氏だったから、みなに可愛がられた。

尋常小学校を卒業し、[愛媛県立今治工業学校機械科](#)  の第3期生として入学した。機械科を選んだのは、将来手に職をつけるためであった。しかし、戦時中であったため、学校では旋盤削りなど軍事関連の技術の修得に集中し、しかも上級生は学徒出陣で近くの紡績工場で武器の生産に駆りだされ、学校に通っていたのは尾崎氏ら1年生しかいなかった。体育の時間になると軍事教練の一環で「銃剣術」と称して、銃の先に剣をつけて敵の胸を突いて殺す練習もした。尾崎氏の平和を願う気持ちは、このときの経験によって醸成された。



愛媛県立今治工業時代、左が尾崎氏

(写真：尾崎今男氏提供)

そして1945年、日本にようやく平和が訪れた。終戦である。戦後すぐに6・3・3制が施行され、1948年に愛媛県立今治工業学校は愛媛県立今治工業高等学校と改称され、6月に紡織科が1学級新設された。尾崎氏は、1年間この紡織科で織機

の基礎を学び、はじめて平和のもとで機械工学にふれることができた。スポーツにも熱心にとり組んだ。陸上(砲丸投げ)にバレーボール(前衛レフト)に水泳(自由形)。砲丸投げでは愛媛県の記録をつくったほど、生粋のスポーツマンだった。(次号につづく)

